

会議等報告書

会議等の名称	第1回あんジョイプラン9（第8次安城市高齢者福祉計画・第8期安城市介護保険事業計画）策定委員会
主催	高齢福祉課
日時	令和元年10月31日(木)午後1時30分から午後3時まで
場所	市役所本庁舎3階 第10会議室
傍聴人	なし
内容	別添会議資料のとおり

典礼より、欠席委員の報告

- 1 市長あいさつ
- 2 委嘱状交付
- 3 委員紹介
- 4 会長選出
- 5 会長あいさつ(要旨)
- 6 市長諮問
- 7 議題
議事の取り回しは会長

議題（1）あんジョイプランの概要について
（2）あんジョイプラン9の策定体制について
（介護保険係長）資料5ページから12ページを説明。

【意見・質問】

なし

（3）高齢者等実態調査（アンケート調査）について
（事務局）調査概要を説明。

- 「一般高齢者」について国が以下の2項目を追加した。
 - ・「介護予防のための通いの場」。安城市での調査では「一般高齢者」問12⑨に該当。
 - ・「認知症にかかる相談窓口の把握について」。安城市の調査では問11に該当。
- 前回のあんジョイプラン8から追加した項目
 - ・外出：「一般高齢者」問21、「認定者」問14
 - ・看取り：全てのアンケートに追加
 - ・施設の入居、待機状況：「認定者」問21

【意見・質問】

(会長)

国からの追加項目である「認知症にかかる相談窓口の把握について」は「一般高齢者」問11に該当するか。

(事務局)

そうである。

(会長)

「認定者」の質問が問26から介護している人向けの内容だが、介護している人は問25までの質問に回答はしてはいけないのか。

(事務局)

「認定者」の表紙の注意書の上から2つ目にあるように、認定者本人が回答できない場合は、家族等の代理人が認定者本人の意思を汲み取って全て回答しても良い。

(会長)

安城市民約19万人の内、調査をする市民が2,000件だがこれで市民の意思を十分反映するに足りるか。

(事務局)

有効回答数1,000件あれば統計上誤差は生じないことになっているので回答率を50%と見込んで2,000件で問題無いと考えている

(委員)

在宅で一人暮らしをしている90歳以上の方は多くおり、この方たちがこの調査を理解できるか心配。郵便物を開くことすらできない人もいる。何か良い方法はないか。

(事務局)

ケアマネジャーに、できる範囲で回答補助の依頼をし、回答率が少しでも上がるようにする。

(委員)

認定者全員に送付するか。

(事務局)

施設入所者を除き、認定者全員に送付する。

(委員)

ケアマネジャーには負担になるだろうがご協力をお願いしたい。

(副会長)

全体として今問題になっていることが網羅できていると思う。この3年間でどう安城の高齢者福祉に関して変わっていくかテーマを織り込んであると良い。

高齢者の外出について。昨年の介護認定審査会で一番問題となったのが運転免許証の返納のライン決めだった。医師が認知症検査やMRIによる検査により診断するが、ご本人やご家族の生活を変えることになるので責任重大である。運転免許証を返納することにより通院等ができなくなるので、高齢者の閉じこもりや引きこもりにつながる。高齢者ドライバーによる事故が問題になってはいるが、簡単に返納するよう言えず、医師はジレンマに悩んでいる。

安城市は公共交通機関であるあんくるバスの本数が少なく自宅近くにバス停がないので整備を。高齢者が運転免許証を返納した後、社会がどうケアするかを考えなければならない。自動運転もまだ現実的ではない。ロシアの都市部でマルシュルートカという乗り合い

タクシーがあり、方面が決まっています、20分に1本程度出ている。この研究をしている日本の都市も出ているが、これはコスト面を見ても良いかと思う。こうした交通整備への取り組みを次のプランに延ばすことはできない。動けなくなった老人はどんどん認知が進んでしまう。この調査は次の3年で前向きに行動を起こすためのフィードバックのための調査である。例えば、「今困っていますか」ではなく「運転免許証を返納したら移動に困りますか」「運転免許証を返納したら移動手段はどうなりますか」と具体的な質問をして安城市版の集計を取り数値で残すことが重要である。

(事務局)

安城市でも、移動支援について、デマンドバスや乗合タクシーについて研究している。そのために今回は前回よりも外出支援の質問項目を増やしている。ご指摘については検討させていただきます。

(委員)

アンケートの回収ができるようケアマネジャーとして協力したいが期間について確認したい。調査の発送から投函までが11月22日から12月10日と、期間が短い。利用者への訪問が終わっている、または、まだ訪問していない可能性もある。期間の見直しをお願いしたい。

また、アンケート内容についての確認だが、一般高齢者の問11「認知症にかかる相談窓口の把握について」、「認知症の症状がある」のは本人を想定しているか。認知症の人が自分で「はい」と言えるか、返答に困るだろう。

(会長)

主語に「あなたは」と入れると良い。期間についてはもっともだと思うが。

(事務局)

ご指摘のとおり、ケアマネジャーに回答補助を依頼するには、回答期間が短い。外部業者との調整をして、できるだけ長い期間がとれないか検討する。

(委員)

訪問介護員もアンケート回答補助に協力できると思うので、ヘルパーネット部会で議題にあげ、できる限り協力したい。

(事務局)

期間は長期間設けられるよう、できる限り検討する。

独居、認知症の方への対応はケアマネジャー、ヘルパーネットに依頼をして、できる限りで協力をしていただけるようにする。

あんジョイプラン8の6ページに前回の調査の回収率が載っているが要支援・要介護認定者は7～8割の回収率であった。今回も同じくらいの回収率が見込めると想定している。

(会長)

以上の意見、質問を事務局に検討していただくことを前提に承認いただけるか。

委員からの異議無し

8 顧問講評

今、厚生労働省の社会保険審議会では介護予防総合事業を全面的に自治体へ移管してはどうかという議論がでている。介護予防よりもフレイル予防に舵を切っている。

また、WHOはエイジフレンドリーシティ、まさにあんジョイプランでうたわれている

アクティブな高齢者の街にしようという計画体系を提示している。

計画体系について、あんジョイプラン8では1. 介護保険サービス 2. 介護予防・生活支援 3. 高齢者福祉とあるが、あんジョイプラン9では3と1を入れ替えて高齢者福祉を前面に出すことを検討しても良いかと考える。

調査項目について。

- ・一般高齢者：問1 2⑨サロン→重要項目なので前の方にした方が良い。
- ・認定者：問1 2, 1 3→類似しているので一つで良い。

外出について、要介護者が家族と旅行に行くサービスも開発されているので「旅行」を選択肢に入れたらどうか。

- ・市民：問2 4④「近い場合」→表現が理解できない。

問2 4④「医療・福祉・介護」となるよう「福祉」を追加すべき。

副会長のご指摘の通り、独居、要支援高齢者が街に出て移動することが重要になってくる。コミュニティバスだけでなく乗合タクシーを運営する協議体を作らないと乗合タクシーは実現しにくい。乗合タクシーを作ることにより地域は活性化する。経済効果も高くなる。積極的に運営協議会を作る必要がある。

9 その他

次回策定委員会

日時：令和2年3月26日（木） 午後1時30分から午後3時

場所：安城市役所本庁舎3階 第10会議室